

提言「国際連携による安全・安心なインターネット社会の構築に向けて—第1回IGFへの提言—」概要

2006年10月17日
(社)日本経済団体連合会

I. はじめに

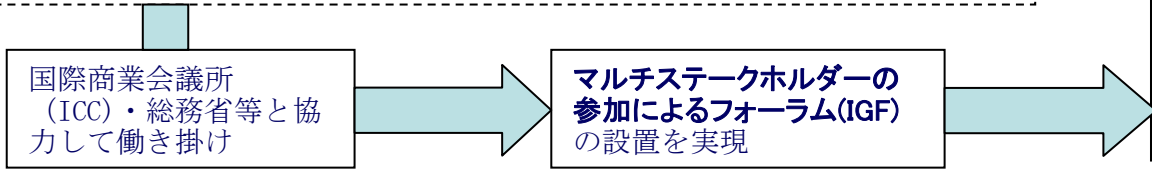
1. 情報革命がもたらす経済・社会構造の変化と新たな課題

- インターネットを中核としたイノベーションが進行中、新たな知の創造と交流サイクル
- 一方、発展に伴う負の課題(サイバー犯罪・スパムの増加、デジタルデバイドの拡大・・・)も発生 ⇒国際連携による新しい制度・解決策が必要
- わが国はブロードバンド先進国として、もっともインターネットの恩恵を受けており、その安全を支えるガバナンス、セキュリティの問題は我々の重要課題

2. サミットからフォーラムへ

- 世界情報社会サミット(W SIS)※に対する経団連の取組みの成果と課題

「現行体制によるインターネットの資源管理の継続」「セキュリティ問題を始めとする、インターネットに関する諸課題の議論を継続するためのフォーラムの設置」等を提案。



国際連携による安全・安心なインターネット社会の構築に向けて提言、IGFに貢献

II. IGFへ向けた提言

※第1回WSIS:2003年12月開催(於ジュネーブ)
第2回WSIS:2005年11月開催(於チュニス)

1. 基本的な考え方

- 民間主導で発展してきた、自由で開かれたインターネットを、**より安全かつ安心して利用することができる環境を構築することこそ、国際社会の最重要課題。**
- そのための広範なコンセンサス形成の場として、IGFは最適。
- 第1回IGFにおいては、個別対応では十分な成果が得られず、また喫緊の課題である「セキュリティ」について重点的に意見交換を行なうべき。

2. 安全・安心なインターネット社会の実現に向けた提案

(1)セキュリティ確保のための新たな国際連携

①国際的な情報共有体制の構築	・各国のCSIRT (Computer Security Incident Response Team) を軸に、インシデント情報や対策ノウハウの共有を行なうべき ・政府および国際組織は、途上国のCSIRT設置を支援
②トレーサビリティの確保	・whois※へ適正な連絡先情報を登録
③スパム対策	・「法制度」「技術」等の多面的な対策を適切な役割分担で実施

※whois・・・IPアドレスやドメイン名の登録者情報閲覧サービス

(2)インターネットの利活用を支える社会的・文化的基盤の整備

①キャパシティ・ビルディングによるデジタル・デバイドの解消	・デジタル・デバイド解消のためには、ODA等を活用した「教育」支援が重要。パートナーシップの強化により、誰もがICTを利活用できる環境を整備
②セキュリティ文化の普及	・先進国のセキュリティ教育も不十分であり、強化が必要 ・途上国支援プログラムの柱の一つとして、セキュリティ教育を行なうことが重要
③高度情報セキュリティ人材育成	・国家戦略として、高度情報セキュリティ人材を育成
④自由と規制のバランス	・オープンアクセスと表現の自由を最大限尊重することを原則として、意見交換を行なう

III. 日本の事例紹介

- (1)携帯スパム削減 : 官民連携しての対策事例。ベスト・プラクティスの一つ。
- (2)P2Pファイル共有ソフトの脅威 : 複合要因により発生するセキュリティ危機の参考事例